

あかまちのまど

第九十七号 二〇〇二年六月一日
発行元 深町 町内会連合会
連絡所 四六三 一三八七

如水館へ着任して

学芸 東風上清剛



着任以来二カ月があつたという間に過ぎました。着任間もない四月のはじめ、高崎壽郎先生が訪ねて来られました。私の息子が小学校卒業以来、先生にはお会いしていません。たので大変なつかしくお話しをしました。その中で「先生のお父さんは、昔深小学校に勤めておられましたよ」という話を聞きました。

多分、昭和十五年頃のことであらうと思われます。当時私の父親は、三原の館町に住んでおり、そこから自転車で山中村(現中之町)を通り、峠を越えて通勤していたらしいのです。高崎先生のお話から、若い頃の父親を想像することが出来、旧知の場所にいるような懐かしさを感じたと思います。

如水館もこの地に移転して九年目を迎えました。先般、町内会長さんのお宅に



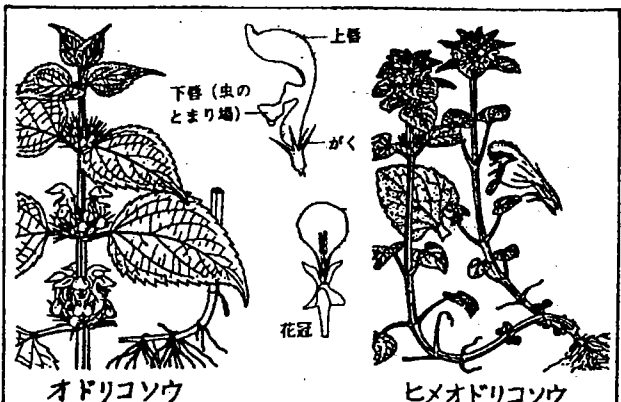
ご挨拶に伺った際、生徒たちが迷惑をかけているのではないかと、思い、その話をしたところ、「大きな声で挨拶をしてくれるので気持ちがいい」「元気のいい若者が増えて町に活気が出てきた」というような話を聞いて少し安心したところで、学校はなんと行ってても地元の人たちと密接につながり支えら

広島県の自然(5)

元深小学校長 山田 義孝

「オドリコソウ」

「踊り子」というと、伊豆を旅する一高生と旅芸人の踊り子との淡い恋を描いた川端康成の「伊豆の踊り子」を思い出す。オドリコソウの名は花の様子からきたもので、命名者の感性の豊かさに感心させられる。花を横から見て、着物を着て編笠を



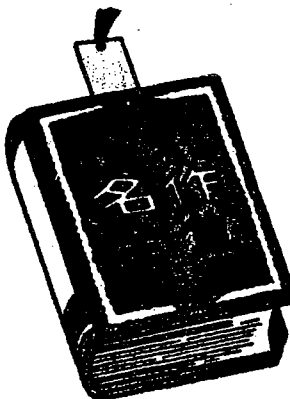
かぶり、阿波踊りや佐渡おけさを踊っている踊り子を連想したものだろ。東アジアの温帯に広く分布し

山野、道端の半日陰に生える多年草で、茎は四角形、葉は長い柄をもち、一節ごとに九十度向きを変えて対生する(十字対生と呼ぶ)。地方によって花がどれも淡紅色であったり、白花であったり、時にはかすかに黄色をおびていたりする。シソ科の花の特徴をよく示す花は、長さ三、四cm、下半分は筒となり、上半分は深く裂けて上下二唇となり、上唇は裂けず、下唇は三裂し、その中央は大きくて先が浅く二裂する。上唇は編笠をかぶった頭、下唇の両側の裂片はしなやかな手先、中央裂片はひらつく袖に見える。から不思議である。雄しべ四本のうち、二本は長く二本は短く、二強雄ずいとよばれている。花粉は水に弱く、ぬれるとたちまち死んでしまうので、上唇が笠となって守っているのだらう。下唇の前方につき出した部分は昆虫の止まり場で、花の生態学ではここをプラットフォームなどと呼んでいる。プラットフォームの下で筒がふくれているのはハチの入り込む場所、ここにめぐりこんで蜜を吸う。実際花をぬいて吸うとサルビアの花とおなじように甘い。上唇の下側にある雄しべの先は虫が入ると裂けて背中に花粉をふりかけ、花期は三、五月で、三原でもあちこちで成育し、筆影山の隣の竜王山の頂上付近には大群落が見られる。花色は淡紅色のもの

れていなければ、発展は望めないで、これからもその努力は続けなければと、気持ちを新たにしました。今私は、学校として何か地域に役立つことがないだろうかと考えているところです。学校は多くの人材と、施設、設備を備えているので、何か喜んでもらえることが有るはずだと思えます。近くご案内をしたと思います。これから地域と一体となれる学校運営をしたいと思っておりますので、ご支援のほどよろしくお願いいたします。

深小学校だより

若葉の鮮やかな季節となりました。一年生も学校生活に慣れ友だちとも仲良く遊べるようになってきました。先月号では、英語教育について書かせていただきましたので、今月は新しく実施しております「読書タイム」について紹介させていただきます。この読書タイムは、月・火・木・金曜日の13時30分から10分間、各教室で子どもたちが好きな本を読む時間になっています。ただ読むだけでなく、絵本を読む一年生から三センチの厚みのある「ハリポッター」を読む六年生まで様々です。字離れが進み、本を読まない子どもが増えている実態が報道されづらいものになります。読書量の多さは



知識の量の多さだけにどまらず、イメージを豊かに膨らませ、読解力もつき、学習の基礎の力を育てます。しかし、子どもたちの場合、特に読書については「読みたい」「おもしろい」か

根は煎じて腰痛の民間薬に用いられ、若芽は食用になる、と文献にあるが、一般的ではないようだ。名前の似たものにヒメオドリコソウがある。名のとおり、オドリコソウを小さくした形の花や姿で、株をつくと群生する。これはヨーロッパ原産の帰化植物の一つで、一八九〇年(明治二十六年)東京での記録が最初である。それ以来ゆくり、しかし着実に全国に広がりに続き、三原では宮浦公園で見られるが、他のいろいろな場所にも成育していると思われる。野に咲く花の美しさ、した

深町各所団体六月行事予定

- ◆ 小学校・幼稚園
 - 衣がえ(幼) 四言
 - 耳鼻科検診(小) 四言
 - 集金日(小) 二言
 - 参観日(小) 二言
 - 貯金日(小) 二言
 - 体重測定(幼) 二言
 - 広島交響楽団演奏会(六年) 二言
 - プール開き 二言
 - テーマタイム(小) 二言
- ◆ 女性会
 - 親睦会 上 二言
 - 中 二言
 - 下 二言
- ◆ 如水館
 - 水明祭 二言

我が国の人材不足を感じさすものに国会議員の高齢化と、世襲性があります。なんでも若くあればよい、と言うものではない。日本改革の障害である「と言えは言い過ぎでしようか。▼中谷蔵さんは、今年三月のA紙で「世界最大のコンピューターメーカー」IBMでは、トップの事実上の定年は六〇歳。ところが我が国では大企業トップの就任年齢は概ね六〇歳前後、IBMならお役御免になる世代が、日本ではようやく社長に就任。本当にこれでよいのだろうか。▼七月、第二次森内閣に平成の是清として鳴物入りで入閣した宮沢さんは八〇歳。わが国の経済運営にそれまでも深く関わって来られた方に何が期待できたのでしょうか。日経平均株価が九〇年には四万円寸前、九五年が一・五万円、そして〇二年は一万円を切る相場。失業率もやや改善されたとはいえ三月現在五・二%です。▼規制保護で守られ超優良企業だったNTT西日本も、昨年度は三三三〇億円の赤字。社員八割、五万六千人を外注子会社に移す。子会社に移った五歳以上の社員の賃金は20、30%減、という現実です。過去の延長線上では生き残れないといふのでしようか。幕末から明治の日清・日露戦、そして昭和の敗戦。この大変動に対処したの

は老眼鏡不要の人たちでした。

御調坂物語 (3)

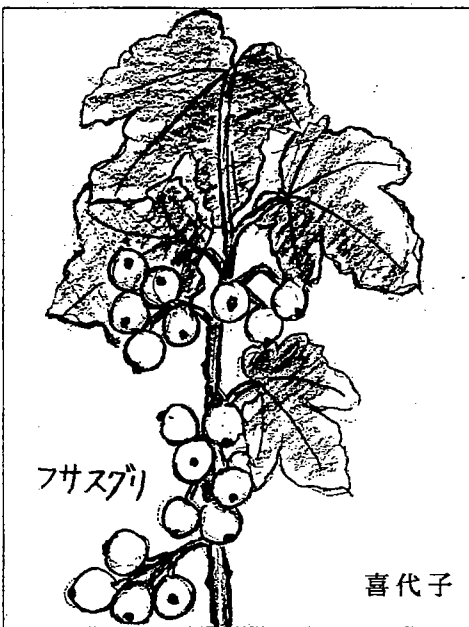
石井 静夫

延命の泉(広虫の化粧水(子))

前述の辻堂から北に三百mほど下った所に小さな洞窟があり、ここから湧水が出ています。ここは険しい岩場であるが、日照りが続いても絶えることなく流れ出る不思議な水である。

この水は、命の水・薬水と言いつたえられていた。神護景雲(奈良時代)の昔、妖僧(まじまじ)道鏡の宇佐八幡事件で、時の孝謙天皇(女帝)の意にそわず、和氣清麻呂は大隈(壱)へ、連座した姉の広虫は備後の八幡荘へ配流された。

広虫は、弟の罪が軽くなるように祈りながら、御調坂を越えて八幡荘に向った。広虫はこの坂を越えた所で、



疲れ果て、意識朦朧となった。栗原沖から大迫峠・綱掛峠と長い道のりと、頂上からは急坂な岩場の為、身動きができなくなっていたのである。丁度、この岩場から流れ出る湧水があり、これを呑むと途端に元氣を取り戻した。広虫はこの水で、疲れ切った顔の化粧直しをした。元々美人であった広虫は見違えるような美しさになった。元氣回復した広虫は目指す八幡荘へ向う。

この岩場から少し下った所に大きな岩があり、力を出し切った後、残った足跡が残る。そこに、法均尼(広虫の後の名)由来の標識が建ててある。

はじめまして

深小学校 大村 哲郎

この度の人事移動で、糸崎小学校より転任してまいりました。年齢は今年で四十三歳になります。住所は福山市の神村町で、毎日高西町・美の郷町を經由して通勤しています。転動してきて、ビックリしたことがあります。

それは、「深の常識はすごい」ということです。まず、今年の小学校の仲良し遠足はあいにくの雨のため山に登ることができず、体育館での全校レクリエーションということになりました。ですが、六年生五年生の児童会の子たちがしっかりリードして、一年生から六年生まで退屈することなく、レクリエーションが行なわれました。これだけでもすごいことです。クイズを出して子どもたちが手を挙げ、児童会の子が指名している時、挙手した子の名前を、この四月に入學した一年生の子まで一人の子も間違えずに指名しているという事です。わがクラスの子に「全校の名前を知っている？」と聞くと、「もちろん知っているよ。」と答える子ども全部知っています。深小学校では当たり前の常識でしょうが、私は、カルチャーショックを受けました。子どもたちの学校での生活する姿勢を見てみると、

全員がみんな兄弟姉妹のような関係になっていっているのにも、ビックリするのを感じました。時には、けんかになり、口で言い合おうとも、それがまた兄弟げんかのように、なんともほほえましいのです。人間関係の希薄になってきた現代社会、何かおかしいのではないかと、思うことが多いです。常ですが、この深小学校で人間関係は、一生の宝ではないでしょうか。おそろく、大人になって速くお互いが離れていって、何かの折に出会えば、昔話に花が咲き、近況を伝え合い、子育ての悩みを話し、明日からの生

活を励ましあうことができるのではないのでしょうか。実際に、深に育った方たちは、現在そう思っているのではないかと思います。現代社会が忘れかけている人のぬくもりを感じ、たがいを案じる良さが深には脈々と息づいていると思えました。住居は替えられませんが、心は深の住人になろうと思っております。がんばりますので、よろしくお願いたします。▲

年月	主な出来事	人口推移
51年4月	三原市に合併	(45年) 987
52年4月	幼稚園開園	(50年) 1,066
54年4月	砂防ダム完成	(60年) 957
69年4月	深三原市と合併	(70年) 798
78年	三原市給水開始	(80年) 873
84年4月	小学校プール新設	(85年) 891
93年5月	町内会連合会発足	(90年) 848
94年4月	如水館高校深町移転	(95年) 944
95年8月	太郎谷バイパス開通	(00年) 1,079
99年12月	サンライズ大池開所	(02年) 1,094

ここを通る人の為に、竹の手杓がおかれ、飲み易いように配慮されており、由来を読みながら喉を潤すことができます。この地区の人は、疲れた時、病気になる時には、この水を呑めば元氣になるといいます。だから、この水は薬水とも言われ、大変重宝されている。又、この近くには、御調坂一号古墳があり、地区の人々が周りをよく手入れされている。およそ千二百年もの昔、広虫(法均尼)が御調坂を越えてから今日まで、どんな日照りが続いても、「延命の泉」は枯れたことはない。だが、昭和六十年頃山陽高速道が計画され、夢想

だにしなかつた突然のことで、真下に通るトンネルにこの水が吸い込まれるのではと、随分心配したものだ。でも「案ずるより生むが易し」のたとえ通り、竜泉寺ダムまでの千五百mの大羽谷トンネルが開通しても、絶えることなく水は流れ出ている。山と緑と自然の美しさを、森が蓄え醸し出してくれるこの水を、いつまでも大切にしたい。

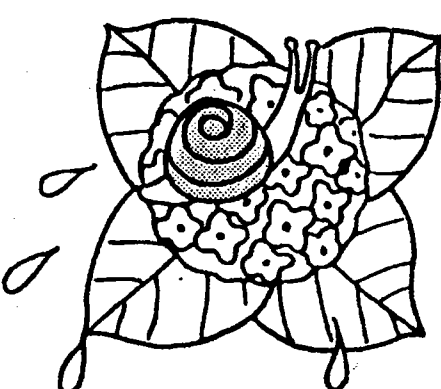
分け入っても分け入っても青い山
へうへうとして水を味う
山頭火
次号 観音様と只佐の庭 ▲▲

尚寿会行事に参加ください

尚寿会 幸谷 満夫

今年度から深町尚寿会のお世話を仰せつかりました。よろしくお願いたします。六月には次の行事を予定しています。会員のみなさんは是非ご参加ください。

- 一、サンライズ大池見学・研修 六月一日
- 二、泥落とし 三和町施設 六月一三日



2001(平成13)年度町内会連合会収支決算書

科目	金額	内訳
前年度繰越金	581,865	
一般会費	724,200	200円X戸数X12
盆行事特別会費	181,200	600円X301
市助成金	438,000	市民体育大会20万円 敬老会23.8万円
諸収入	123,271	
利息	101	
合計	2,048,637	

科目	金額	内訳
活動費	339,653	町民運動会 28,025
		市民体育大会 286,685
		ゲートボール大会
		グラウンドボール大会 13,571
		ターゲットゴルフ大会 3,110
		ビーチバレーボール大会 8,262
助成金	200,000	子ども会 150,000
		尚寿会 50,000
敬老会	298,910	記念品・弁当代
盆行事	174,833	ビンゴゲーム・花火
諸費	109,502	祝金(如水館甲子園出場) 30,000
		表彰 18,347
		記念石碑 61,155
備品	155,400	複写機
負担金	28,900	防犯組合費
事務費	42,295	コピー・印刷代
会議費	11,350	飲みもの
次年度繰越金	687,794	
合計	2,048,637	

平成13年度会計決算が正確適正に処理されていることを認めます。 監査委員 林 毅 印 同村 上百合子 印